

市民社会創造ファンド設立 15 周年企画を開催しました。



「私たちが市民活動助成で目指してきたこと～15年のあゆみの中で何がみえてきたか～」

市民社会創造ファンドは、この9月に法人化15周年を迎えました。市民社会の資金源を豊かにすることを目指して2002年に設立し、これまで様々な企業や財団、個人等と協力しながら2,048件、23億5,843万円の助成を行うことにより、市民社会の担い手である市民活動を応援してきました。

これまでに取り組んできた7つの助成プログラムの報告を通して、私たちが目指してきたことを市民活動助成の関係者の皆様にお伝えし、また関係者の研修と交流の機会になることを願い、本企画を開催しました。当日は、ドナー企業・財団、後援団体、一般参加者等100名にご参加いただきました。

<基調報告> 市民社会創造ファンド運営委員長：山岡義典

「設立時に、専門的なコンサルタント機能を備えた資金仲介組織として、先駆的で特徴のある助成プログラムの企画開発をすることを使命に掲げた。具体的には、人も組織も育つ助成を行うこと、協力者とも議論を重ねること、必要に応じて人件費も含めた運営費を



助成すること、可能な範囲で継続助成を行うことを重視してきた。さらに経験を重ねるなかで、助成プログラムを5年ごとに見直し、計画型助成へも積極的に取り組むようになった。振り返ってみると“市民社会に新鮮な血（資金や目に見えない力）を通わせること”が、私たちが実践してきたことであつたかもしれない。このような実践ができたのは、個人、企業、財団等の資金的な支援と協力があつたからこそである。関係者には心から感謝を申し上げたい。」

<7プログラムの報告>

●市民ファンド推進プログラム

「市民ファンド／コミュニティ財団の成長と発展のため、共に学び合い互いの育ちを助け合うことを意識して、助成プログラムと研修プログラムを企画・運営している。」

●タケダ・ウェルビーイング・プログラム

「助成対象者はかなり限定的だが、萌芽期分野への支援として、計画型助成により丁寧な掘り起こしと育成、団体間の交流促進を意識して取り組んでいる。」

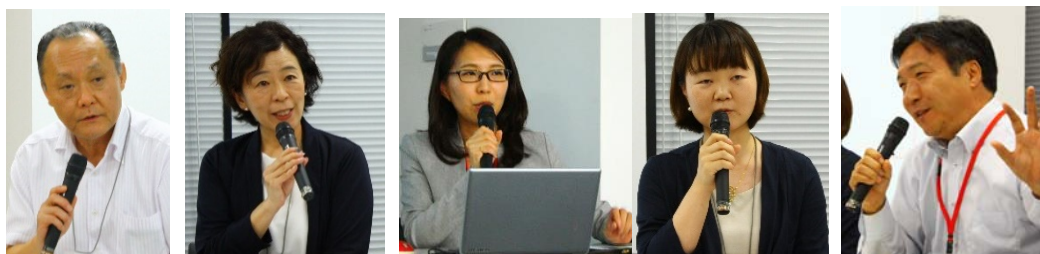


●中央ろうきん助成プログラム

「地域ブロック単位（関東 1 都 7 県）の助成金は珍しく、この助成プログラムの面白さである。助成対象団体、労金、NPO 支援センター、選考委員のつながりを大切にしている。」

●スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラム

「第 1 期ではコミュニティスポーツの概念を形成するため研究助成を中心に取り組んだ。第 2 期ではコミュニティスポーツの実践活動を広げるため実践助成に取り組んでいる。」



●ファイザープログラム

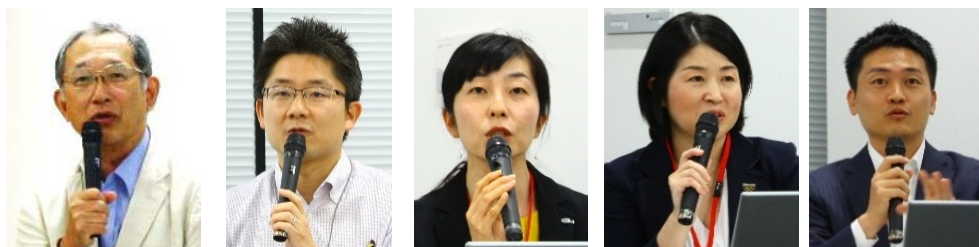
「ヘルスケアの概念を広く捉えて、先駆的で独創性が強い市民活動を応援している。「当事者性」「専門性」「市民性」が心とからだのヘルスケアの取り組みを特徴づけている。」

●Panasonic NPO サポート ファンド 子ども分野

「NPO/NGO が持続的に発展できるよう、組織基盤強化を応援している。2011 年のプログラム改訂では、第三者の客観的な視点を取り入れた組織診断を採り入れている。」

●住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム

「東日本大震災の復興支援で若者の参加を支援した。フォーラム等の開催により、お互いの顔が見える関係や参加者同士のネットワークができた。選考委員と団体の距離も近い。」



<総合コメント> セゾン文化財団 常務理事：片山正夫氏

「市民社会創造ファンドは財産を持たない助成財団であるが、効果的なプログラムを構築し、丁寧に運営することで資金を何倍にも活かしている。市民社会創造ファンドは助成財団がなかなかできないことをやっていると感じた。」

印象的だったことがいくつかある。それぞれの分野で見えない財産を創るという発想から、“現状を変えていく”ことが強く意識されていること。現場の担い手との対話を重視することが現場への理解の深まりと柔軟な対応につながっている。並走しながら成長を見守る姿勢が見える。プログラムの企画・開発から始まり、見直しを経てプログラム自体も成長させている。一般的に、事務局経費の重要性が十分に理解されていない中で、良い助成をするために事務局スタッフが勉強するためのお金や現場へ何度も足を運ぶための旅費を確保している。また、企



業が資金を市民社会創造ファンドへ丸投げして終わりではなく、コラボレーションであることを常に意識して窓口担当者が取り組んでいる。」

参加者からは、「ファンドのキャリアを多くの人に伝えてほしい。」「ぶれない姿は、さすがだ。今後も牽引役を果たしてほしい。」「助成を受ける団体、助成する企業、プログラムオフィサーなど、プログラムに関わる人、団体すべてが育ち合う仕組みに改めて感銘を受けた。これからもより良いプログラムを期待している。」等のメッセージをいただきました。



その後、参加者の皆さんの出会いと交流を深めるための懇親会の時間を経て、15周年記念企画は盛況のうちに幕を閉じました。



(2017年9月8日 於：ヒューリックカンファレンス浅草橋)